

包丁の命とは、何か

令和七年三月二十五日 於加茂法話会

二千六百年程前、北印度のルンビニ、現在のネパールの南部タライ平原にある村です。

四月八日にご誕生なされたのがお釈迦様です。生まれてすぐに七歩 歩いて「天上天下唯我独尊」お釈迦様の教えは命を大切に正しく生きる事です。「自他共に尊い存在である宣言」

どのように、生きれば良いのでしょうか。「諸悪莫作 衆善奉行」

諸々の悪事は露塵ほども作らじと誓い、衆々の善事は海嶽ほども行うと願い、この清らかな行いと清らかな心を誓願として生きて行くことが、仏教の心得であり、諸々の仏とお釈迦様の生き方であります。

「悪い事を止めて、善い事を続ける」そんなに難しい事では有りません。

苦…ゴミや空き缶が散らかっています。嫌だなと感じる。(苦の結果)・・・包丁が錆びる
集…それは、ゴミや空き缶を散らかす人がいるせいです(苦の原因)・・・切れなくなる、
滅…ゴミや空き缶を片付ければキレイになります(楽の結果)・・・砥石で研ぐ
道…片付ける方法がお釈迦様の正しく生きる道なんです(楽の原因)・・・何時も切れる状態に

仏教は、何時でも、何処でも、誰もが出来る生き方です。人作りの宗教、人格形成の道です。人から人へと伝えて受け継いで行く事、特に禅宗はこの事を重んじます。お釈迦様の悟りに直結した坐禅を中心にして、囚われのない、安らぎの生活を送る事を目的としています。

人間は、誰でも過失があり、思い違いがあります。過失や誤解に気がついて、これを改めて行く所に、人間の尊さと価値があるのです。素直に正直に生きる、もし、間違ったら、心が錆びてしまったら、三宝という砥石で研ぐ、基に戻す。

誰も見ていないと思っても、自分が気付かないだけ、

水は掴む物ではなく 水は掬うものです。心も掴む物ではなく 心は受け取るものです。
なさけが 行為になったとき、心が生きる。心が生きる事は 人と人の絆が生まれたこと
絆があつてはじめて人間は生きることが出来る。人間は一人で生きてゆく事が出来ない、
だから、互いに支えあう事が大切なのだ。欲望に振り回されずに、人と人の間を大切に
近寄りすぎても駄目、離れての駄目。

あるつもりでないのが、優しさです。 ないつもりであるのがおせっかいです。

あるつもりでないのが、平等です。 ないつもりであるのが差別です。